

(3) あばれ川をなおす工事 ～社川河川改修工事～

社川は、白河市旗宿から流れ出て、番沢・八幡・中寺・堀之内河東田・深渡戸をすぎ、棚倉町、浅川町をへて石川町に流れ、阿武隈川に合流しています。社川の水を利用している水田の面積は、1市3町1村を合わせて、およそ1090haになっています。

表郷村では、社川を利用してもまだ、水不足になやんではいきましたが、一度大雨がふると、たいへんなあばれ川になって、人々をくるしめたことが何度もありました。社川は、川すじがとても曲がっていて、大雨がふるたび、大きなひがいをもたりました。

むかしから、何回もくり返され、もとにもどすまでにたいへんなお金と仕事でした。むかしの人々がくろうしたことは、古い文書にも見られたそうです。

昭和36年6月の台風のときは、大雨がふり、今までにないたいへんなひがいをこうむりました。そこで、村では、社川の流れをかえて、今後、ひがいにあわないように工事をしてほしいとおねがいました。県や国は、約13億円ものお金を出して、社川河川改修助成工事を昭和36年12月に始めました。約6年間かけ昭和41年に工事をおえました。



改修工事前の社川の流れ（昭和35年ごろ）